

令和2年10月1日

大型獣捕獲の担い手確保・育成施設整備の計画状況について

新潟県県民生活・環境部環境企画課
新潟市環境部環境政策課
(一社)新潟県猟友会

6月末に「大型獣捕獲の担い手確保・育成施設（ライフル射撃場）整備」についての住民説明会を開催したところ、多くの皆さまからご参加いただき誠にありがとうございました。

その後、山の手コミュニティ協議会内に設置した住民代表との検討会で懸案事項等の協議を行っておりますが、改めて地域の皆さまに計画している施設の概要、住民説明会におけるご質問等への回答・対応状況、担い手の状況等についてお知らせします。

近年イノシシ、ツキノワグマなどの大型獣の生息域が拡大し、里山や市街地にも分布を広げることで人身被害や農作物被害が増加していることから、捕獲のための担い手確保は切迫した課題となっています。猟友会の高齢化が進む中で、10年後の安心・安全を見据え、担い手の育成を早急に取り組む必要があります。その育成に必要なライフル射撃場の適地は用地の関係や施設の運営、通年開設の必要性から他にない状況である点をご理解ください。

今後も地元との意見交換を継続しながら、安全性を第一に計画を進めてまいりたいと考えております。また、地域の課題については、関係各所で知恵を出し合い進めて参りますので、本計画についてご理解いただきますようお願い申し上げます。

○説明会以降の動き

- ・説明会で要望のあった住宅付近の水質検査を住民立ち会いのもと実施しました
- ・住民代表の検討会において懸案事項等への対応を協議しています

○今後の予定

- ・引き続き住民代表との検討会で協議を重ね、懸案事項を解消していきます
- ・協議の内容について、住民の皆様に状況をお知らせします
- ・山の手コミュニティ協議会幹事会において、住民合意についてご判断いただきます
- ・合意いただいた場合、山の手コミュニティ協議会、県・市等で組織する新潟県広域被害防止協議会、新潟県猟友会の3者で安全対策や環境対策等について覚書を取り交わします

本資料に関するお問い合わせ先

新潟県県民生活・環境部環境企画課 ☎025-280-5152

I 計画中のライフル射撃場の概要

- 設置目的
大型獣捕獲に必要な大口徑ライフル銃の教習（練習）射撃、スコープ調整等を行うため
- 施設の概要
 - ・既存の新津クレ射撃場に隣接して設置
 - ・面積 0.8ha程度（幅40m×奥行き200m程度）
 - ・建屋内から発射
- 利用予定人数
1年間に1,000人程度（1日平均5人程度）
週末を中心に通年開設
- 整備・運営主体
（一般社団法人）新潟県猟友会
【整備にあたり県および県内全市町村で「広域被害防止協議会」を結成し、建設費等を支援】



II 住民説明会における質問等と回答・対応状況

ライフル射撃場整備のメリット、デメリットについて教えてほしい

■メリット

- ・今後当地区でも出没が予想されるイノシシ・クマを捕獲するための地元人材の育成が図られます
- ・イノシシ・クマ等が出没した場合率先して対応し、地区住民の安全・安心を守ります
- ・地域で農作物等の鳥獣被害が発生した場合、被害対策の支援やノウハウの提供を行います
- ・次代を担う子供たちへ、野生鳥獣との共生に向けた教育施設としてイベント等を開催します
- ・測量・設計、建設工事、イベント等において地元調達に配慮します

■デメリット

- ・1日あたり5人程度の利用を見込んでおり、通行車両が増加します
- ・建物内からの発射になりますが、1人あたり1回10発程度の発砲音が出ます

他に候補地はないのですか

- ・運営管理の面から、既存の射撃場に隣接して設置する必要があり、右記の県内5箇所の候補地のうち、必須となる3条件をすべて満たすのが当地のみとなります

条件	新津	巻	長岡	十日町	柏崎
①用地となる一定の長さ（200m）の土地が確保できる	○	×	×	×	×
②隣接する既存の射撃場に教習指導員（A級）がいる	○	○	○	×	×
③銃の調整等のため、通年で利用が可能	○	○	×	×	×

建設費はどのくらいになりますか

- ・総額で9千万円程度を想定しています。建設費の1/2は国の交付金を充て、残りを県・県内全市町村・猟友会で負担する計画となっています

担い手の育成計画を教えてください

- ・本施設の稼働により年間80名程度の担い手を育成し、イノシシの数を減少させたいと考えています

イノシシの数は今後も増えると思うので、施設を整備し一人でも多くのハンターを育成して欲しい

- ・射撃場整備を含め、狩猟免許取得支援等様々な方策により担い手の育成を進めてまいります

10年後、安心して子供たちが登校できるような観点でも射撃場の設置は良い

- ・地域の皆さまが今後も安心して生活できるよう、安全性を第一に計画してまいります

ライフル射撃場の安全性や音が心配です

- ・射撃場は法令により構造や設備等の基準が決まっており、発射した弾が施設外に飛び出すことはありません。さらに侵入防止柵や防犯カメラ、注意看板を設置し、施設への迷い込みを防ぎます
- ・発射音については、コンクリート製の建物内で発砲するとともに、音が外に広がらない構造とすることで騒音を大幅に抑えられます
- ・また早朝・夜間は発砲せず、発砲数もクレー射撃場の1割程度と予想しています



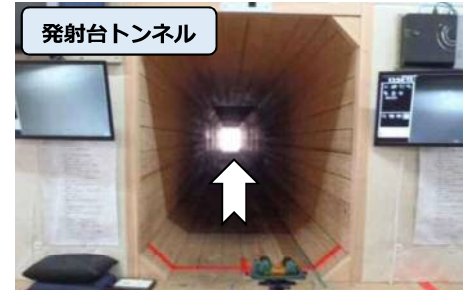
射撃場建屋

- ・コンクリート製の建物内から発射



発射台

- ・建物内の発射場所（5座）



発射台トンネル

- ・手前側から奥方向へ発射
- ・開口部が狭いため、狭い範囲にしか弾は飛んでいかない



トンネル出口

- ・建屋からトンネルを通して発射される
- ・開放部を小さくし、外に出る音を低減
- ・音の出る方向を山側に向ける



着弾点（屋根付きバックストップ）

- ・全ての弾はバックストップに着弾する
- ・定期的に弾を回収、毎年環境調査を実施



安全対策

- ・侵入防止柵や監視カメラを設置

ライフル射撃場への道路が狭く、交通事故等が心配です

- ・ライフル射撃場へのアクセス方法や通行の安全確保については、住民代表と対応協議を進めています

計画地の木が枯れていたり、沢が変色しているのはなぜですか

- ・計画地付近の立木の松枯れは松くい虫被害によるもので、水の変色は周辺の地質由来の鉄分が沈殿したものと考えられます

クマやイノシシは警察や自衛隊に撃ってもらえばよいのでは

- ・警察も自衛隊も原則として動物は撃てないルールになっており、また有害鳥獣捕獲は動物の生態や行動に熟知している猟友会にお願いするのが一番効果的であると考えています

既存のクレー射撃場からの排水や音が気になるので調査してほしい

- ・クレー射撃場からの排水については、市が毎年鉛の濃度を計測しており、これまで問題となる数値は検出されていません。また、説明会で要望のあった追加の水質調査を実施し、表流水、井戸水とも鉛に係る環境基準を満たしていることを確認しました
- ・住宅地等におけるクレー射撃場の発砲音については、地形や気象条件による変動があるため、測定方法等について住民代表と協議してまいります

継続して住民の声を聞いてほしい

- ・今後も地域と定期的に意見交換や情報提供する場を設けます

6月28日住民説明会における猟友会会長あいさつ

新潟県猟友会における担い手確保・育成について

このたびの大型獣捕獲の担い手確保・育成施設整備計画について、何かと地域の皆さま方からお気遣いいただき感謝申し上げます。

猟友会という組織は80年ほど前、戦時中に防寒用のタヌキやウサギ、イタチ等の毛皮を供給した団体が始まりと言われていています。その後、有害鳥獣と言われるカラス、ムクドリ、タヌキ等を捕獲する社会貢献としてボランティアも努めてまいりました。

しかし、昨今はイノシシ、ニホンジカ、ツキノワグマ等の出没が多くなり、消防団と同様に1年中出動体制を取らなければならない大変な任務となっています。

クマやイノシシが市街地へ出没しますと、まず一番に猟友会へ確認作業や捕獲出動依頼があります。鳥獣捕獲の現場には、市町村担当のほか警察・消防も駆けつけますが、獣の捕獲や捕殺はほとんど猟友会の任務となっています。

今は何とか対応することができていますが、会員の平均年齢は現在65歳と高齢化しており、5年後10年後は、そのような状況があっても出動できる人員が限られ、地域によっては会員がいなくなる状況が考えられます。

近年、新潟県と協力しながら狩猟者を育てる企画や狩猟免許取得の事前講習等を積極的に実施し、最近では若い人や、女性の狩猟免許取得者が増えつつあります。しかし、この新人ハンターがイノシシやニホンジカ、ツキノワグマに立ち向かうには、知識や経験のみならず大型獣に対する射撃訓練や教習射撃、スコープの調整も必要です。

現在、新潟県にはそれらの訓練や練習をする大口径ライフル射撃場がなく、他県へ出かけて射撃練習や教習射撃を受けております。そのため、時間や交通費のかかる煩わしさ等から新たにライフル銃の資格を持つ会員がほとんどいないのが現状です。

そのような状況を打破し、今後とも有害鳥獣捕獲体制を維持するため、今回、国や新潟県及び県内全市町村からの助成を受け、新潟県猟友会が事業者として、以前から有害鳥獣捕獲にご協力頂いている新津クレイ射撃場の隣接地にライフル射撃場の施設整備を行うこととしております。

安全対策を万全に行いますので、地域の皆さまには、本計画について何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

一般社団法人 新潟県猟友会 会長 池田 富夫